

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271800389		
法人名	社会福祉法人 桜江福祉会		
事業所名	陽光苑グループホーム		
所在地	島根県江津市桜江町長谷2723番地2		
自己評価作成日	平成25年2月15日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9-16		
訪問調査日	平成25年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達職員一同は、理念である「よろこび、安らぎ、自信」を念頭におき、日々ご利用者様と生活を送っています。また、四季を目や肌で感じられる程の恵まれた自然環境の中で、家庭的な雰囲気を大事にしなが、ご利用者様が積極的に活動(調理、洗濯干し、たたみ、食事片付け等)していただけるよう支援を行っています。そして、昔ながらの風習(干し大根、盆団子づくり、おはぎ、巻き寿司等)を大切にしたり、一年中通して野菜づくりを行い、収穫への期待を喜びを味わっていただけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から年数がたっており、当初の5床から9床に増床。法人を含め地区で主要な福祉施設として地区住民からの期待も大きく、高齢化率の高い地域での存在価値も大きい様子が伺える。地域の方々による施設回りの草刈りやボランティアの定着からしても、長い歴史の中でいい関係が築けていることが強く感じられた。利用者も職員も1名以外は女性で、その為かとても穏やかで、ゆったりしており、調理の作業や洗濯、掃除といった生活間が、流れの中で感じられ、本来のグループホームの持ち味を生かしたケアが実践されている。山間の地域で若い人が少く、職員の年齢も高いが、細かい点での配慮がケアの中でも生かされており、チームワーク良く取り組まれている点等好感が持てた。今後に於いても地域と一体になってるといふ利点を生かし、様々な面で地位貢献に努めていただきたい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安らぎ、自信、よろこび」の理念を基に、ご利用者様がいつまでも自分らしく過ごせることを重視しながら、日々の業務に取り組んでいる。また、毎朝の引継ぎ、ミーティング時に理念を唱和している。	よりわかりやすい理念をということで、平成18年に作成。第2の家庭として安らいでいただき、それぞれが持っている能力を生かせるよう、手助けするという思いを、管理者が職員に伝え、共有するようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、お参り等に出向いたりして交流を深めている。また、地域のボランティア(清掃、演芸等)、小中学校の福祉体験を受け入れて交流している。	地域に唯一の施設として、開所当初より交流が深く、行事等への参加は多く行われている。地区の方々の思いで、施設回りの草刈りも年3回行われたり、普段は定期的に窓拭きもボランティアで実施されており、いい関係が築けている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市包括の主催で「キャラバン・メイトサポーター養成講座」を地域へ出向いて開いた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、グループホームの現状報告(行事報告、ご利用者様の身体等の状況報告)を行っている。また、参加者からの意見を反映するようにしている。	地区代表として、公民館長、自治会長、民生委員、行政、施設代表、家族等の参加で定期的に行われている。家族は県外者が多く参加者が固定化しているため、年1回夏祭りに併設の特老と合同家族会として開催し、意見を聞くようにしている。	意見交換のみならず、参加者により役立つような内容になるよう検討いただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議には、かかさず出席して頂いており、意見、提案も頂いている。	運営委員会にも毎回参加があり、他のグループホームの様子等を聞いたり、申請、保険制度等についても、必要時に意見を聞いておりいい協力関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する研修を実施し、全職員が正しい理解に努め、実践している。	拘束をしないケアの実践に努めており、毎月2回施設長より、いろいろな場面を想定した内容で注意を促すような回覧があり、繰り返すことで職員間での意識統一を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修として、高齢者虐待防止法について、全職員が正しい理解に努め自覚を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修にて、制度について学ぶ機会を持っている。現在のところ、それらを活用できる機会はない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者様・ご家族様に十分な説明を行うよう心がけている。また、後日でも疑問点等があれば、遠慮なく言っていただくよう伝えている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱を設置したり、日々のご家族様の面会時には、ご家族様へ積極的に声をかけ、要望等の聞き取りを行い、反映するように努めている。	便りを2か月に1回送付したり、プラン作成時や、紙パンツ等身の回りの物を持参してもらい際など、意見を聞く機会を増やすようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告・連絡・相談をこまめに行い、気づいたりしたことを朝・夕の申し送り時において、話し合いを行い改善に努めている。	ケア方法等、こうした方がいいという意見などはその都度出してもらうように、会議の席などで伝えており、普段からよく意見は出ている。必要に応じて検討し変えていくようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見の聴取をこまめに行い、適宜職員環境の改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力、経験年数、スキルに応じて積極的に研修に参加している。また、日々の勤務の中でもアドバイス等を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催するグループホーム部会に出席し交流する機会を作っている。また、研修会で他の事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、こちらから訪問し面談を行い、コミュニケーションを図り、要望を聴くようにしている。また、入所後は話し合う機会を多く作り、ご本人の思いを理解し信頼を得ることに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、ご家族との面談を行い、不安や要望等を聞き、相談に応じている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者が前項の聞き取りに沿った支援の方針を決定し、その方針に基づいて全職員が支援を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという気持ちを持ち、尊敬・感謝を忘れず、共に過ごす生活の中で、相談したりアドバイスをもらっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや誕生日会と一緒に参加でき楽しめる雰囲気作りに努めている。面会時に日常の様子をお伝えしている。また、2ヶ月に1回発行するグループホーム便りで報告している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の来所は自由であり、来所を歓迎することで、その関係が継続されるように努めている。また、入所前から行きつけであった理容院へ入所後も行けるように支援に努めている。	町内で1番大きいイベントには馴染みが深く、手芸等の作品を出していることもあり、皆で見学に行ったり、以前から利用していたスーパーに買い物に出かけたりと、地域の方との触れ合いの場を大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人のペースを大切にしている分、関わりが少なく方もおられる。同じ時間を共有し、歌やレクリエーション、外出、散歩等で関係を深められるように努めている。また、食事の座席等は、ご利用者様の関係性を見ながら職員で話し合い決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お通夜・葬儀への参列を行っている。ご家族様とは、電話で相談等を受けている。また、施設に立ち寄られることもある。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日々の会話の中で、思いを聴きとるように努めている。日頃と違う行動・表情をされる時には、不安やストレスを感じていないかを観察している。表現が難しい方には、ご家族様からの情報を基に、ご本人の思いをくみ取り、問いかけを行っている。	日頃の様子の中で何気なく言われることを気にかけるようにしている。何をしている時が一番楽しいか。これとこれはどっちがいい。など聞き方に配慮するようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、ご家族様より情報提供して頂いたり、日々の関わりの中でご本人より伺い、職員間で共有できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりの生活リズムや過ごし方を理解し、訴え等に耳を傾けるよう努めている。また、できることに注目し、利用者様の1日の暮らしの中に取り込めるよう支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り等で常に職員間の意見交換を行い、ご本人・ご家族様・主治医の意見を聞き、介護計画検討会において総合的に協議し、介護計画を作成している。	計画は皆で意見を出し合い、ケアマネが中心となり作成しており、手に合うこと、できることを役割として、サービス内容に細かくあげ、経過を見るようにしている。6か月に1回モニタリングを行い、実情に沿ったものになるようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録へ、日々のご利用者様の様子や言動・行動・食事摂取量・排泄状況を具体的に記録することで、職員間で情報を共有している。また、ケアプランが実践に繋がるように、実施記録へ記入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の病院受診や入院時に必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や公民館活動に参加している。また、地域や町の文化発表には、グループホームの作品を出展している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医に週2回往診していただき、ご利用者様の健康管理を行っている。医師と24時間体制で緊急時には、いつでも対応ができ、適切な医療を受けられるよう支援している。	法人の嘱託医の定期的な往診や夜間等の緊急時の対応も確保されている。更新時のかかりつけ医の受診や、精神科の受診にも職員が同行し対応。日頃の様子を詳しく伝えることができ、家族からも喜ばれている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設の看護師がご利用者様の薬の管理を行っている。日常の健康管理や状態変化の場合には、看護師から嘱託医へ上申し、指示を仰ぎスムーズに対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は見舞に伺い、ご利用者様、ご家族様が安心して治療できるよう言葉をかけている。また、状況や経過を病院の医師、看護師、相談員、ご家族様でカンファレンスを開き、スムーズな退院、帰所後の適切なケアの提供に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人、ご家族様の意向を確認し、その後も必要時に話し合い再確認している。事業所で出来る限りの対応に努めると共に、限界についても充分説明をしている。嘱託医、看護師も含め方針を共有している。	法人の特老を併設しており、重度化した場合も対応が可能になっている。入所時にここでの対応については説明しており、重度化に向かう段階でもその都度、関係者で話し合う機会を持つようにしている。	重度化や終末に向けた心のケア等含めた幅広い内容の研修を検討いただきたい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、消防署の協力を得て、年に1度心肺蘇生法、AED操作の講習を受講し、対応できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご利用者様と共に年2回、消防署の協力を得て、火災を想定しての避難訓練を行っている。また、消火器、消火栓の使い方の訓練を行い、職員一人ひとりが身につけている。	年に2回定期的な訓練を実施している。より実践に即したものになるように、緊急連絡網を作り替えたり、職員の消火器等の訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の権利、人権を常に意識し適切な対応に努めている。特に言葉使いは、人生の先輩として敬意をはらう対応をしている。	日頃の業務の中で気付いた際、その都度職員間で注意するようにしている。言葉がけには特に注意するよう繰り返し伝えている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は個別援助技術を学び、思いを表現できる。また、自己決定できる環境作りや言葉がけを行い、表現が困難な方には言動からニーズを読み取り代弁するよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの趣味・嗜好・生活ペース等を理解、把握しており、楽しみを持ちながらつづぎ、居心地の良い生活が送れるよう支援している。活動や行事への参加は希望を伺い個人の意思を尊重している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわり、好みを尊重しながら、清潔を心掛け、季節や場に応じた衣類等のアドバイスをしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様一人ひとりの持っている力を見極め、それを活かしながら食事作り、盛付け、配膳等を職員と共にできるよう支援している。また、一つの食卓を囲み会話を楽しみながら食事をしている。	調理全般の流れの中で、できることを分けそれぞれ自分の役割として、進んで取り組んでいる。職員と一緒におやつを作ったり、誕生日にはできるだけ当日ケーキを作りお祝している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を基にバランスよい食事を形態、量等個人の状態に応じ、また、調理法にも配慮し提供して、楽しみかつ安全に食事ができるよう支援している。水分量が一日を通じて確保できるように、フロアーにお茶を準備している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた援助法で、毎食後、口腔ケアを行っている。また、1日1回以上のイソジンでのうがいも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックし把握した上で、言葉がけや誘導の援助を行うと共に、下肢筋力の低下を予防し、トイレでの排泄が続けられるよう自立に向けた支援を行っている。	声掛けの必要な方にはパターンをチェックして対応。下肢筋力低下を防ぐため、毎日体操をしたり部屋の掃除等できることはしてもらうようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックで状況を把握し、看護師・医師と連携を取り、その人にあった排便コントロールを行っている。繊維の多い食材を使い、水分を十分取ることを心掛け、毎日体を動かす時間を持ち予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の一人ひとりの入浴に対する希望(湯加減)やタイミング、入浴の回数等に合わせた援助をしている。また、ゆず風呂や入浴剤を用意し、入浴を楽しんでもらっている。	時間帯や、順番、湯の温度などその都度聞くようにして、できるだけ希望にそうように組み合わせ対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じ、居室やソファー・こたつでくつろぎ、休息がとれるよう支援している。日中に活動の場を提供し、夜、安眠できる生活リズムが整うよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明をご利用者様毎に記録用紙につけ、全職員が内容を把握できるようにしている。また、症状の変化について観察し、看護師に経過等を報告している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や現在の力が活かせるよう家事や活動の場で役割を持っていただき、感謝を伝えたり、趣味を続けることで、張り合いや楽しみを持ち生活ができるよう支援を行っている。また、散歩・戸外散歩で気分転換を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には、戸外散歩を行っている。また、定期的な外出計画を立て、普段は行けないような場所へ出かけている。また、ご家族様にも協力いただき、一緒に外食・墓参り等ができるよう支援を行っている。	大きな外出行事の際は職員を増やすようにして対応したり、普段も2回に分けて出かけるなど配慮している。天気に合わせて午前・午後に散歩に出たり、イベントを利用して外食の機会を持ったりと、外に出かける機会を増やすようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買い物には、本人の財布から支払えるよう支援している。また、希望があれば家族の了解を得て、一部を所持する支援もしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での会話や荷物が届いた時の礼状・手紙の返信、賀状を書く支援をすることで、本人の交流関係が円滑に継続できるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じ、遮光をしたり室温や温度の調整・換気を行い、常に快適に過ごして頂けるよう努めている。また、季節行事の飾り付けをしたり、季節の花を飾る等し、生活の楽しみを持ちながら過ごして頂けるよう心掛けている。	廊下が広くどこからも日の光が差し込み、とても明るい。各所に季節の花が飾られ、壁には手芸等の作品も飾られている。紙コップのひな人形、ハガキ作り、ランプシェード作り、瓶のふたのリースなど多くの作品が明るさに花を添えている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の落ち着く好きな場所で、気の合う同士、歓談やテレビを観たり本を読む等、自分の時間を楽しみつつろいで過ごされる。また、ご利用者同士で居室の行き来をして過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、馴染みや思い入れのある物を居室に置き、その人らしく安心し落ちついて過ごせるよう工夫している。	部屋の入口にはそれぞれ違った暖簾がかけられてあり、中はテレビ、写真、本、自分の作品など好みの物が置かれている。どの部屋も窓から日光が差し込み明るく、居心地良い空間になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を的確に把握し、補助具の使用や理解しやすいように貼紙等を利用して出来るだけ自立した生活が安全に行えるよう工夫している。		